

千人塚と解剖人墓

東京都立谷中霊園に“千人冢”と書かれた大きな墓石が3つある。これは、東京大学医学部で解剖され、医学教育に供された遺体の霊を慰めるために建てられたものであり、その隣に東京大学医学部の納骨堂がある。それぞれ1,000体余りの献体を慰霊するために、1881（明治14）年6月、1892（明治25）年6月、1913（大正2）年6月に建てられている。中央の墓石は、1881（明治14）年6月のもので、その左側面に、初代 東京大学解剖学教授 田口和美（1839～1904年）が、1870（明治3）年10月～1880（明治13）年9月までに解剖した数が1,000名を超えたことを記している¹⁾。

この千人塚の文字は、“人”の字の右の撥ねに、3つのはらいがあり、塚は偏の“土”の字がない。“千人冢”の題字は、池田謙斎（東京大学医学部総理）によると碑文にある。「五體字類」（西東書房）によれば、「人は^{ひと}に作る。側面から見た形なり。」とあり、その多くの人を現す象形といえる。また、五經文字の“冢”の書は、土に帰らず、医学教育の解剖に供された遺体の霊を慰める意味なのか²⁾（写真1）。

東京都足立区にある清亮寺は、1619（元和5）年の創建といわれる日蓮宗の古刹である。1870（明治3）年から翌年にかけて解剖された11名の名を記した“解剖人墓”がある。小塚原刑場で斬首された死罪人であろう。小さな墓石に、戒名・解剖日・俗名・年齢が刻まれ、11人の戒名のうち8人は“刃”の文字が使われている（写真2）。

1872（明治5）年に建てられた墓石は、表面が剥がれ落ちるなど傷みが激しかったことから、1965（昭和40）年に再建されている。その碑文には、「明治初年日本医学のあけぼのの時代 明治3年8月当山で解剖が行われました 仏をふわけさせるものなどだれもいないころでした 被解剖者はすべて死罪人でした 執刀は福井順道が一人 大久保適齋が九人



写真1 千人塚（谷中霊園）



写真2 解剖人墓（清亮寺）

亜米利加人ヤンハンが一人 いずれも日本医学のパイオニヤーたちでした」と刻されている。

同じ時期1870（明治3）年に解剖された死罪人と、東京大学解剖学教室による医学教育の解剖に供された遺体、ともに杉田玄白（1733～1817年）、前野良沢（1723～1803年）らが小塚原刑場で罪人の解剖を見学した1771（明和8）年から100年後のことである³⁾。

■ 参考資料 ■

- 1) 諸澄邦彦, 美幾女の解剖, *Isotope News*, No.711, 33 (2013)
- 2) 高田竹山監修, 五體字類, 西東書房 (1916)
- 3) 諸澄邦彦, 杉田玄白と前野良沢, *Isotope News*, No.708, 24 (2013)

〔日本診療放射線技師会 諸澄邦彦〕